８極アダムスモーターによる発電機の駆動実験

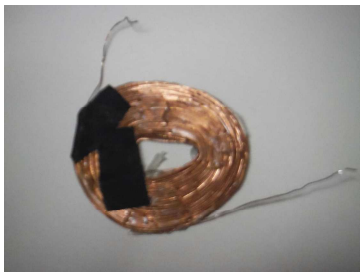
2023.2.25ユビキタス発電研究会　田村良一

以前、作製発表した、ホールセンサーＩＣを使った８極アダムスモーターに発電機を取り付けて、効率を調べる実験を行った。ローターは150Φに変更した。

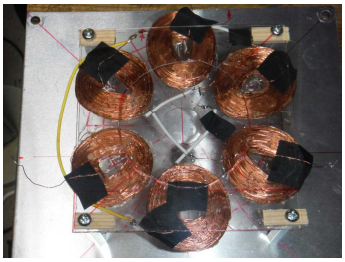
取り付ける発電機は、風力発電用の発電機を使用した。これは、元、東芝の技術者であった久保氏のマイクロ風力発電機の設計と製作（ＣＱ出版）という本から選んだ。

幾種類かの発電機が提示されているが、今回は、コイルが６極で磁石が１０個使用の物を選んだ。これは、直径１０㎝と小型なので、この発電機に向いているのではないかと考えた。この場合出力は、３相交流となる。

の

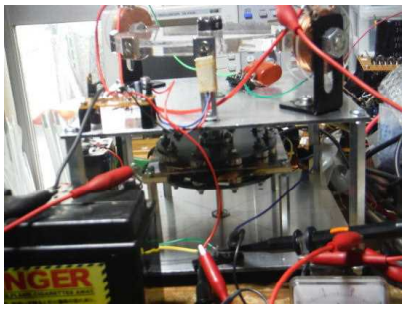


コイル



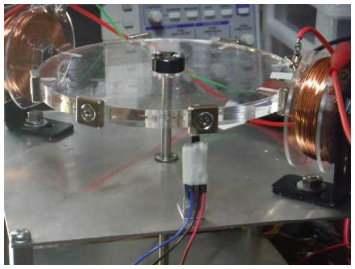
６極コイル

１０個の磁石ＮＳ交互に取り付け

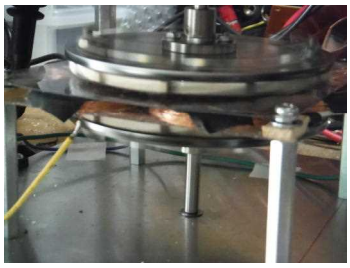


８極アダムスモーターに取り付け回転

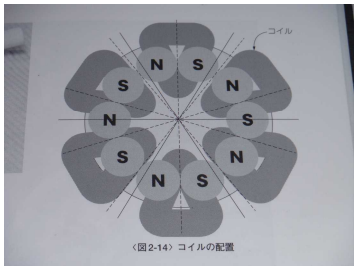
今回、ホールセンサーＩＣ回路を、少し改良して、実験を行った。改良部分は、次の図のようである。



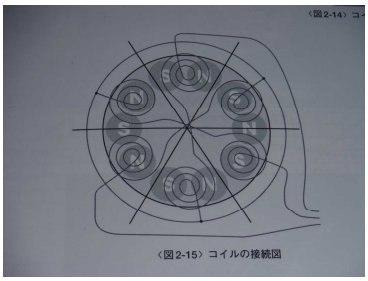
ホールセンサーＩＣ



発電機

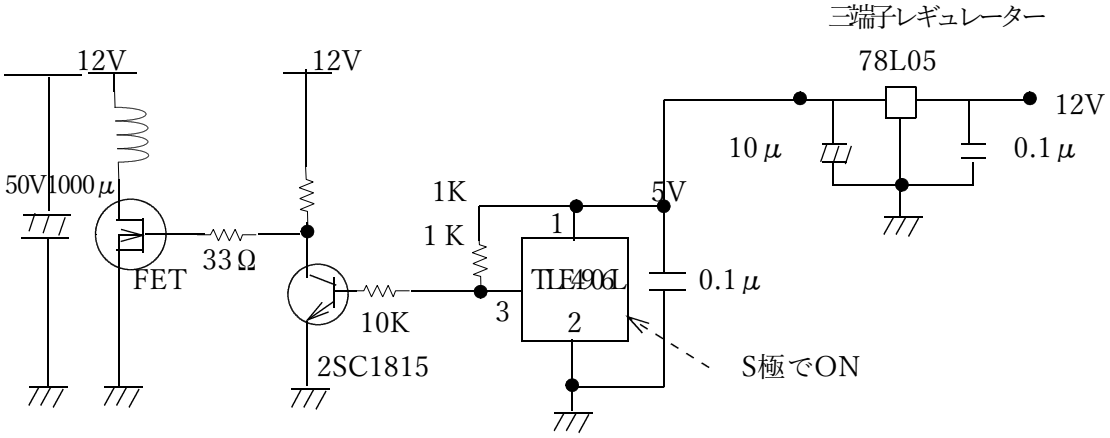


コイルと磁石の配列

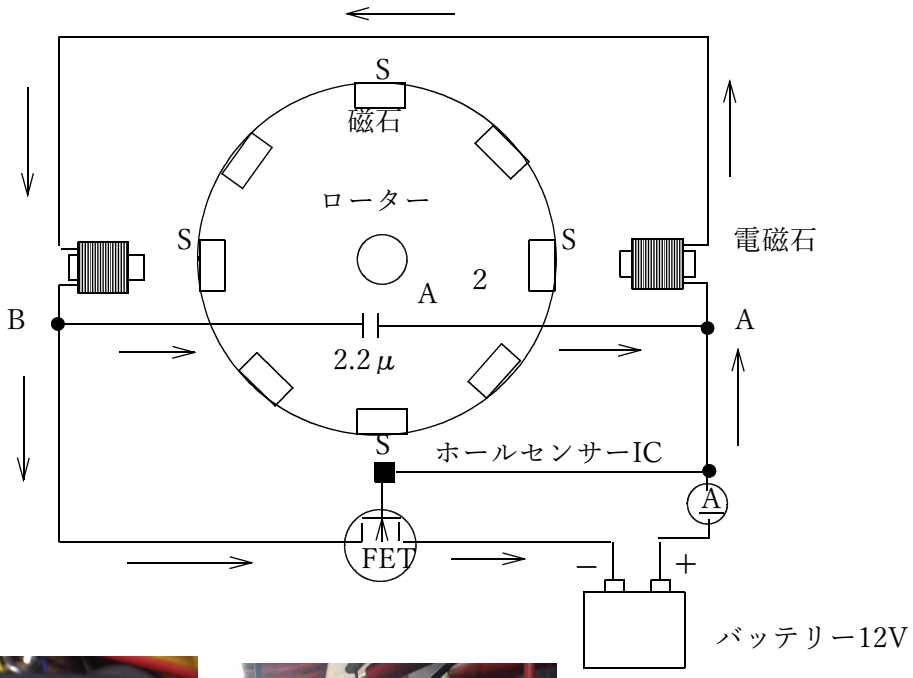


コイル配線図及び３相の出力線

センサー回路　（TLE4906L使用）

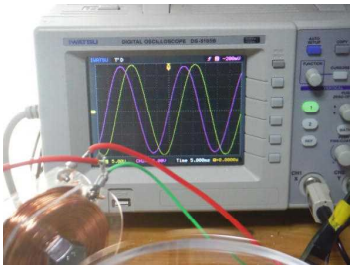


８極アダムスモーター



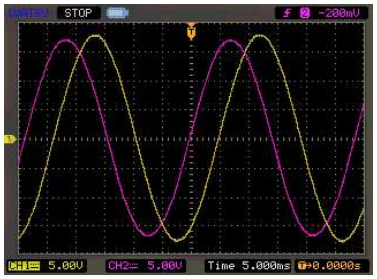
回転計426 rpm

電流計 0.2A

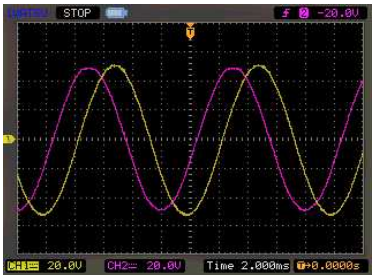


出力波形

出力波形を次に示すが、１５Ｖ程度である。次に、ローターを外し、電動ドリルを使って、回転させた時の、出力波形も次に示す。こちらは、５０Ｖ位である。



オシロ波形
垂直5V/div 水平5ms/div



ドリルで回転時の波形
垂直20V/div 水平2ms/div

結局、回転数が、426rpmと低いため、十分な出力が取れていないので、回転数を上げる必要がある。このため、磁石の間隔を狭くして12極にするか、150Φのローターを120Φにするなどのことが考えられる。また、軸受けも、より性能が良い物と変えることもある。

続、 前々回に提示された米海軍のＵＦＯ遭遇事件のテレビ放送の内容

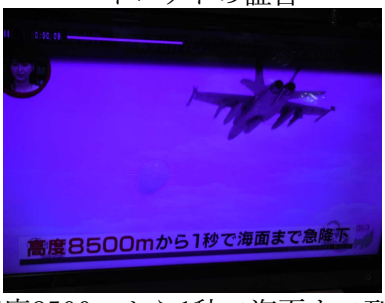
前々回に西野さんが発表された、ペンタゴンが公表した米海軍のＵＦＯ遭遇事件ですが、詳しい内容が、昨年の8月23日に、テレビ東京で放送されたものを録画していたのでその主な内容を、報告します。公表されたのは、2004年に、米海軍原子力空母ニミッツが遭遇した事件です。当時、ニミッツのレーダー担当者ケビン・デイ氏が取材に応じました。レーダーで異常な飛行をする物体を発見後、当時、飛行中のフレーバー中佐が出撃した、その時の映像が世界に公表されたものである。パイロットの証言によると、飛行物体の色は、白色で、全長12ｍまゆのような形だったということである。また、物体は、高度8500ｍから、1秒で海面まで、急降下し、ようやく戦闘機が追いつくと、一瞬のうちに飛び去ってしまったとのことである。後ほど、計算したところ、物体の速度は、時速3万9千ｋｍだと分かった。これは、地球上には存在しない飛行物体であることがわかる。

その後、空母に謎の男達が乗り込んできて、ＵＦＯ目撃時のありとあらゆるデータを回収していった。彼らは、国防総省の調査官だと名乗ったという。本当だろうか？というような内容である。

ケビン・デイ氏

パイロットの証言

ロックオンから離脱



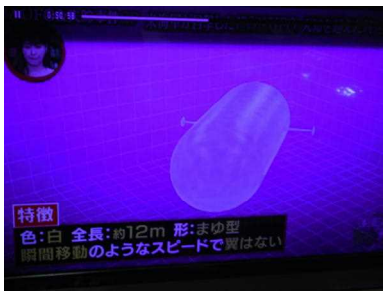
高度8500ｍから1秒で海面まで到達

目の前から一瞬で消える

時速3万9千ｋｍ

戦闘機最速時速3000ｋｍ

最速ミサイル時速1万2千ｋｍ



白色全長12ｍ繭型

あらゆるデータ持ち去る